

酒田市 人口動向分析・将来人口推計 データ集



令和7年2月 企画調整課



人口動向分析・将来人口推計
データ集

【人口の将来推計】

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

酒田市の将来人口推計

酒田市の人口の自然増減

【持続可能性自治体分析】

9分類による「消滅可能性自治体」の状況

県内自治体の持続可能性分析結果比較

【人口の状況】

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移

県内他地域との合計特殊出生率比較

酒田市の年齢5階級別人口

酒田市の人口と年齢構成の推移

酒田市の自然増減と社会増減

酒田市の人口性比

酒田市の世帯数の推移

【社会増減の状況】

酒田市の転入・転出の推移

酒田市の年齢別転入転出数

酒田市の年齢階級別移動状況

若年層の流出状況

酒田市と他地域との人口移動状況（社会動態）

酒田市から他市町村への転入・転出の状況

県内高校生の卒業後の進路

酒田市の昼夜別人口(昼夜間人口比率)の推移

通勤・通学における流動人口

【産業別人口の状況】

酒田市の年齢別産業分類人口の状況

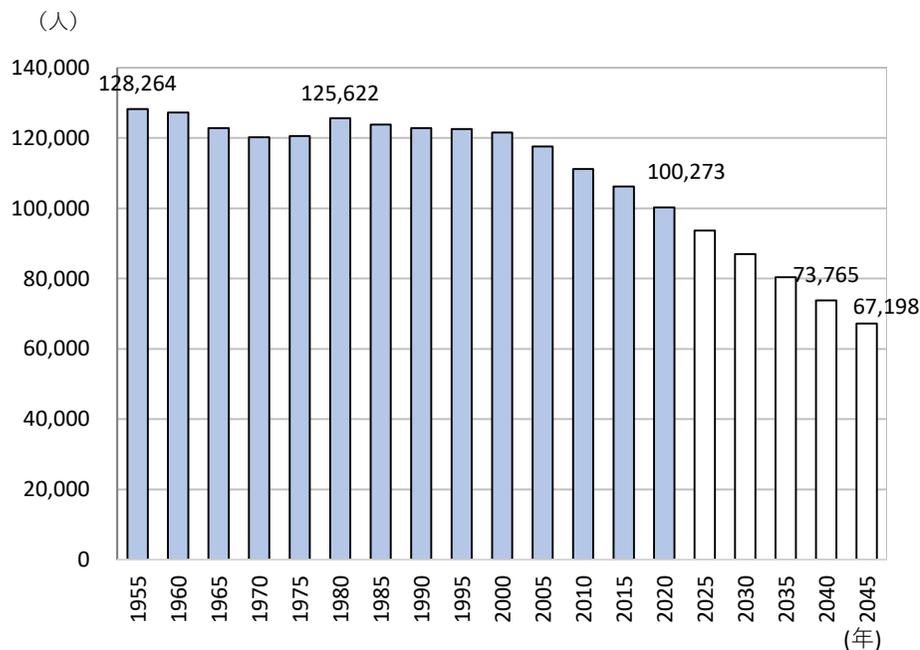
酒田市の年齢別産業分類人口の状況（構成比）

酒田市の男女別産業分類人口の状況

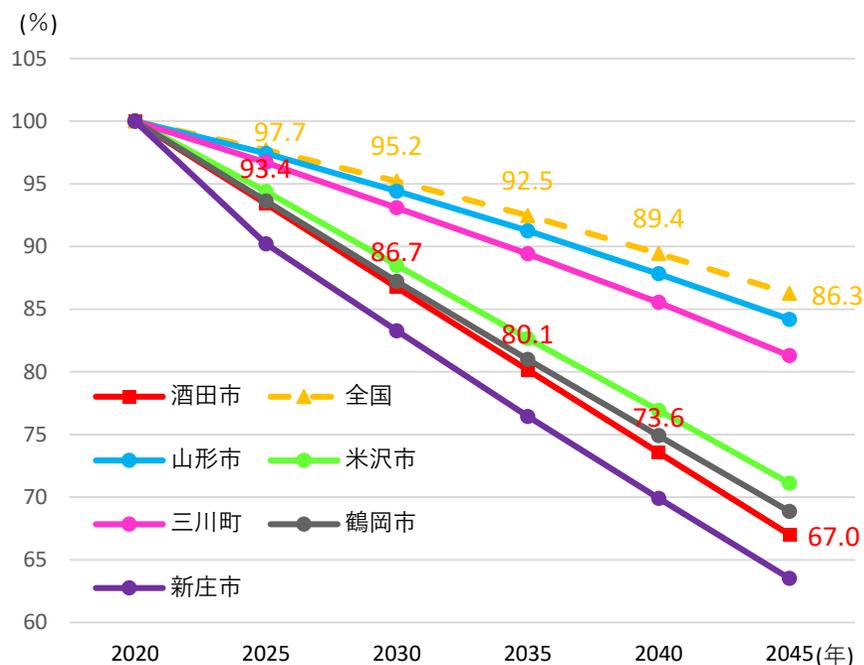
国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

- ・酒田市の人口は、1955年（昭和30年）の128,264人が最も多く、その後は減少し、1970年代に一旦回復したものの、その後は減少の一途をたどっている。
 - ・国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）推計準拠では、2045年（令和27年）には総人口が67,198人となり、2020年（令和2年）に比べると約30%減少すると推測される。
 - ・県内5市1町（山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、新庄市、三川町※）の中では、2020年を100とした場合の2045年の減少率が2番目に高い。
- ※令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポートにおいて消滅可能性自治体を脱却したため、参考として掲載。

酒田市の総人口の推移



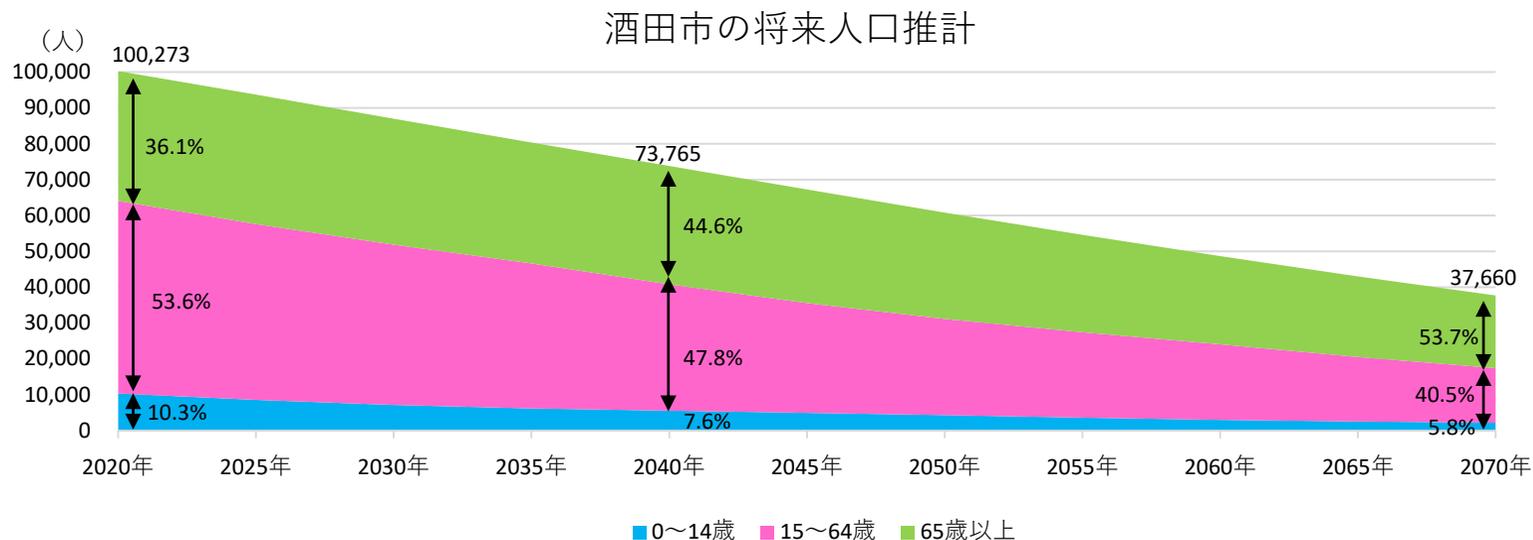
県内他地域との将来推計人口比較
※2020年（令和2年）を100とした場合



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計準拠

酒田市の将来人口推計

・酒田市の将来人口は、社人研推計では2045年（令和27年）は67,198人、2070年（令和52年）は37,660になると推測される。

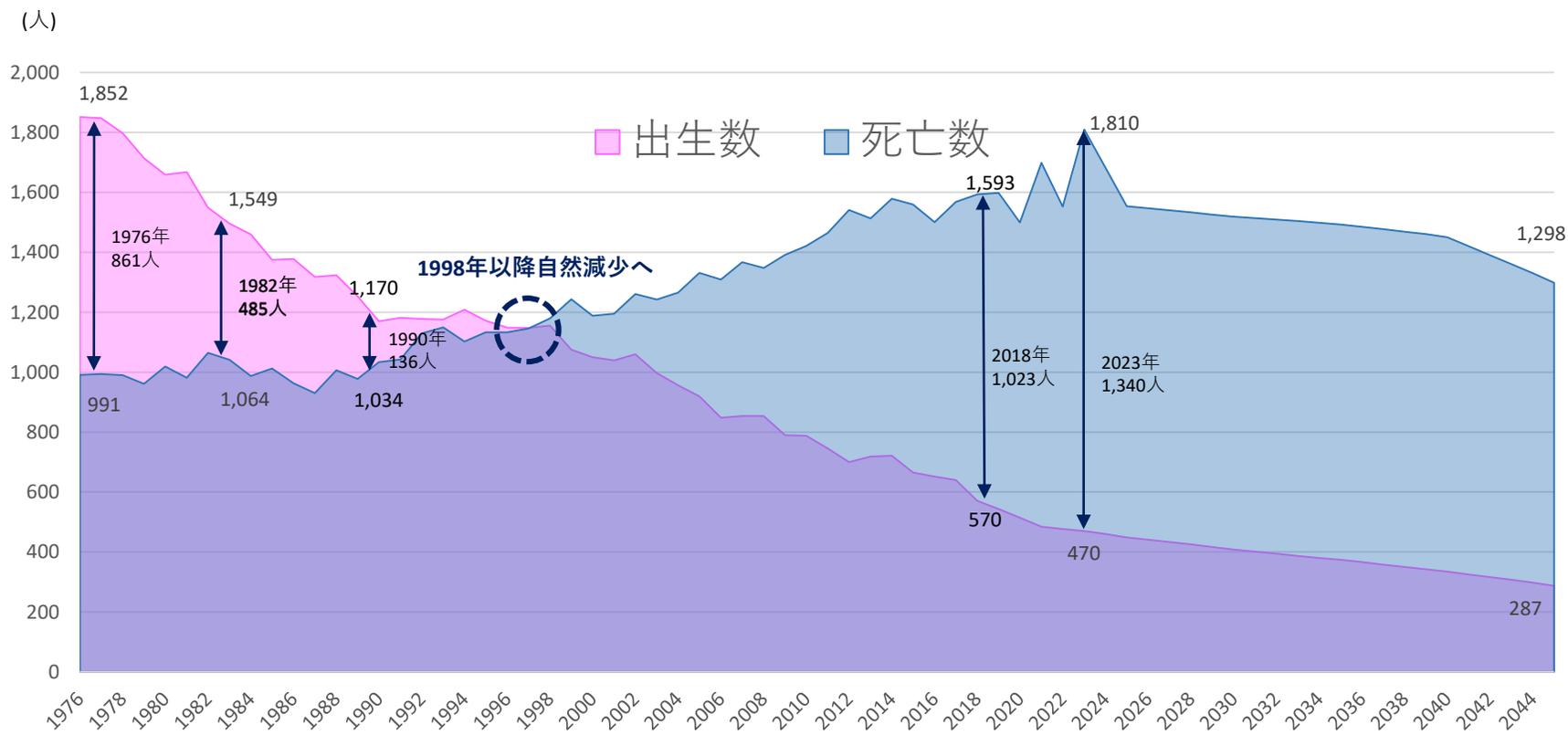


	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
0～14歳 (人)	10,313	8,525	7,129	6,142	5,571	4,970	4,276	3,571	2,961	2,507	2,183
構成比 (%)	10.3%	9.1%	8.2%	7.6%	7.6%	7.4%	7.0%	6.5%	6.1%	5.8%	5.8%
15～64歳 (人)	53,697	49,044	44,737	40,432	35,235	30,565	26,841	23,827	21,057	18,004	15,234
構成比 (%)	53.6%	52.4%	51.4%	50.3%	47.8%	45.5%	44.2%	43.7%	43.3%	41.9%	40.5%
65歳以上 (人)	36,263	36,106	35,104	33,783	32,959	31,663	29,652	27,162	24,609	22,456	20,243
構成比 (%)	36.1%	38.5%	40.4%	42.1%	44.6%	47.1%	48.8%	49.8%	50.6%	52.3%	53.7%
総人口 (人)	100,273	93,675	86,970	80,357	73,765	67,198	60,769	54,560	48,627	42,967	37,660

- ・基準人口＝総務省統計局「国勢調査」による、2020年10月1日現在、市区町村、男女、年齢5歳階級別人口（総人口）
- ・出生に関する仮定値＝将来の子ども女性比（0-4歳人口の20-44歳女性人口に対する比）及び0-4歳性比（0-4歳女性人口100人当たりの0-4歳男性人口）
- ・死亡に関する仮定値＝将来の生残率
- ・移動に関する仮定値＝将来の移動率

酒田市の人口の自然増減

- ・ 出生数が死亡数を上回る自然増は、1976年（昭和51年）に861人、1982年（昭和57年）に485人、1990年（平成2年）に136人と推移し、1998年（平成10年）には出生数が死亡数を下回る自然減となった。
- ・ 1998年（平成10年）以降、自然減は続き、2023年（令和5年）の自然減は、1,340人（死亡数1,810人－出生数470人）となっている。出生数は減少し続け、2045年（令和27年）の出生数は287人となり、2018年（平成30年）の約半分まで減少すると見込まれている。
- ・ 死亡数は近年増加傾向で推移し、今後の推計では横ばいで推移すると見込まれている。



資料：2023年まで山形県「山形県の人口と世帯数」、2024年以降は社人研推計準拠より作成

(年)



人口動向分析・将来人口推計
データ集

【人口の将来推計】

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

酒田市の将来人口推計

酒田市の人口の自然増減

【持続可能性自治体分析】

9分類による「消滅可能性自治体」の状況

県内自治体の持続可能性分析結果比較

【人口の状況】

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移

県内他地域との合計特殊出生率比較

酒田市の年齢5階級別人口

酒田市の人口と年齢構成の推移

酒田市の自然増減と社会増減

酒田市の人口性比

酒田市の世帯数の推移

【社会増減の状況】

酒田市の転入・転出の推移

酒田市の年齢別転入転出数

酒田市の年齢階級別移動状況

若年層の流出状況

酒田市と他地域との人口移動状況（社会動態）

酒田市から他市町村への転入・転出の状況

県内高校生の卒業後の進路

酒田市の昼夜別人口(昼夜間人口比率)の推移

通勤・通学における流動人口

【産業別人口の状況】

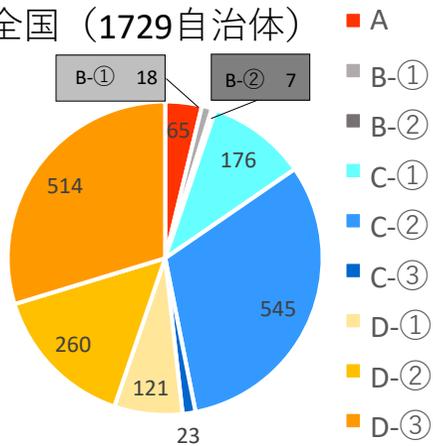
酒田市の年齢別産業分類人口の状況

酒田市の年齢別産業分類人口の状況（構成比）

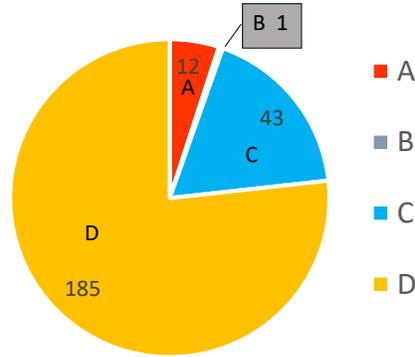
酒田市の男女別産業分類人口の状況

9分類による「消滅可能性自治体」の状況

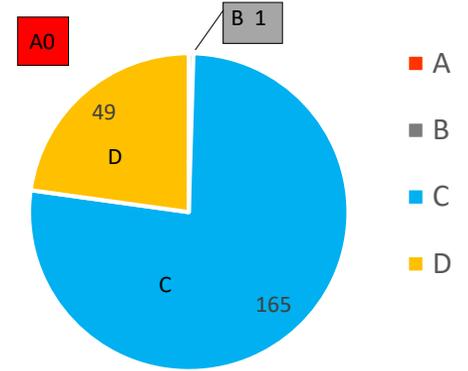
全国（1729自治体）



人口規模5～10万人（241自治体）



東北（215自治体）



自治体の人口特性別9分類(自然減対策と社会減対策)

- A 自立持続可能性自治体: 65
- B ブラックホール型自治体: 25 (B-①:18, B-②:7)
- C 消滅可能性自治体: 744 (C-①:176, C-②:545, C-③:23)
- D その他の自治体: 895 (D-①:121, D-②:260, D-③:514)

縦軸

移動仮定	封鎖人口	減少率20%未満	減少率20～50%未満	減少率50%以上
減少率20%未満	A 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要	
減少率20～50%未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要	
減少率50%以上	C-① 社会減対策が極めて必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要	

(注)縦軸および横軸の「減少率」は、若年女性人口(20～39歳)の減少率

横軸

人口特性別9分類とは(左表より)

縦軸 = 移動仮定における若年女性人口減少率による分類

横軸 = 封鎖人口*における若年女性人口減少率

*封鎖人口...各自治体において人口移動がなく、出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定した推計結果

・全国の状況では「自立持続可能性自治体」は65で、全1729自治体の4%に満たない。また、「ブラックホール型自治体」は25(全体の1%)である。

・「消滅可能性自治体」の総数は744(同43%)で、その中でも特に構造的に深刻な自治体(C-③)が23(同1%)ある。

・いずれにも該当しない「その他の自治体」は895(同52%)にのぼるが、自然減対策と社会減対策がともに必要な自治体(D-③)が514(同30%)となっている。

・人口規模が5～10万人の自治体では「自立持続可能性自治体」は12で全体の5%弱、「消滅可能性自治体」は44で全体の18%となっている。

・東北は「消滅可能性自治体」が165で、その数も割合も全国最多であり、社会減対策も自然減対策もともに必要な自治体が大半である。

県内自治体の持続可能性分析結果比較

自治体名	分析結果			2050年人口（移動想定）			2050年人口（封鎖人口）			2020年		
	9分類	前回比較 （消滅可 能性）	前回比較 （増減率 の分類）	前回比較 （増減 率）	若年女性 人口減少 率（%）	若年女性 人口 （人）	総人口 （人）	若年女性 人口減少 率（%）	若年女性 人口 （人）	総人口 （人）	若年女性 人口 （人）	総人口 （人）
山形市	D-③		△②	△6.8	▼31.9	17,410	198,986	▼36.6	16,212	192,235	25,570	247,590
米沢市	D-③		▼②	▼2.1	▼48.8	3,655	53,112	▼34.4	4,683	59,232	7,141	81,252
鶴岡市	C-②	γ-①	△②	△1.3	▼51.1	4,761	76,968	▼26.6	7,152	84,377	9,744	122,347
酒田市	C-②	γ-①	△②	△1.5	▼55.9	3,412	60,768	▼31.5	5,308	66,257	7,745	100,273
新庄市	C-②	γ-②	▼②	▼8.0	▼59.0	1,164	19,662	▼31.1	1,957	23,937	2,842	34,432
寒河江市	D-③		△②	△7.3	▼40.9	2,189	29,014	▼25.2	2,770	30,740	3,702	40,189
上山市	C-②	γ-②	▼②	▼0.4	▼61.6	833	15,550	▼37.3	1,362	17,977	2,172	29,110
村山市	C-②	γ-②	▼②	▼8.3	▼62.5	593	11,556	▼31.4	1,084	14,163	1,581	22,516
長井市	C-②	β	▼②	▼2.1	▼51.9	1,055	16,881	▼26.3	1,616	18,602	2,192	26,543
天童市	D-③	α	△①	△15.3	▼36.0	3,951	49,037	▼26.2	4,555	49,643	6,171	62,140
東根市	D-③		▼②	▼0.8	▼25.0	3,605	41,769	▼22.0	3,752	39,789	4,808	47,682
尾花沢市	C-②	γ-②	▼②	▼1.5	▼70.0	279	6,207	▼21.9	726	9,072	929	14,971
南陽市	D-③	α	△②	△1.5	▼49.6	1,324	19,390	▼25.2	1,963	22,140	2,626	30,420
山辺町	C-②	β	▼①	▼14.8	▼50.3	559	8,978	▼31.9	766	9,672	1,124	13,725
中山町	C-②	γ-②	▼②	▼2.8	▼57.3	363	6,417	▼31.3	584	7,321	850	10,746
河北町	C-②	γ-②	▼②	▼0.9	▼51.3	639	10,671	▼25.4	979	11,926	1,312	17,641
西川町	C-②	γ-②	▼①	▼10.9	▼72.4	81	1,987	▼33.4	195	2,698	293	4,956
朝日町	C-②	γ-②	▼②	▼3.3	▼68.2	119	2,835	▼27.0	273	3,676	374	6,366
大江町	C-②	γ-②	▼②	▼3.5	▼60.4	203	4,059	▼26.2	378	4,824	512	7,646
大石田町	C-②	γ-①	△②	△1.9	▼65.7	144	3,082	▼34.8	274	3,879	420	6,577
金山町	C-②	γ-②	▼②	▼4.2	▼69.1	112	2,317	▼22.4	281	3,378	362	5,071
最上町	C-①	γ-①	△②	△6.8	▼62.6	186	3,830	▼11.7	439	5,097	497	8,080
舟形町	C-②	γ-②	▼②	▼3.5	▼65.2	105	2,436	▼24.5	228	2,968	302	5,007
真室川町	C-①	γ-②	▼②	▼4.5	▼63.8	162	3,176	▼17.9	368	4,329	448	7,203
大蔵村	C-①	γ-①	△②	△6.6	▼70.6	57	1,346	▼10.3	174	1,988	194	3,028
鮭川村	C-①	γ-①	△①	△12.4	▼65.8	78	1,776	▼6.6	213	2,408	228	3,902
戸沢村	C-②	γ-②	▼②	▼1.5	▼75.1	73	1,848	▼34.5	192	2,453	293	4,199
高島町	C-②	β	▼②	▼2.4	▼50.9	906	13,826	▼25.4	1,376	16,121	1,845	22,463
川西町	C-②	γ-①	△②	△3.0	▼61.6	406	7,107	▼26.5	778	9,299	1,058	14,558
小国町	C-①	γ-②	▼②	▼8.0	▼61.7	155	3,298	▼13.1	352	4,406	405	7,107
白鷹町	C-②	γ-②	▼②	▼5.1	▼62.5	327	6,660	▼26.8	639	8,222	873	12,890
飯豊町	C-②	γ-①	△②	△4.1	▼56.1	215	3,508	▼20.4	390	4,492	490	6,613
三川町	D-②	α	△①	△18.8	▼34.1	397	5,848	▼7.6	556	5,844	602	7,601
庄内町	C-②	γ-②	▼②	▼2.7	▼60.4	581	10,773	▼26.5	1,079	13,290	1,468	20,151
遊佐町	C-①	γ-①	△②	△3.1	▼65.8	258	6,160	▼16.6	630	7,823	755	13,032

山形県は「消滅可能性自治体」が全体の80%にのぼる。社会減、自然減対策が必要な自治体は全体の20%となっている。

◎持続可能性分析結果

前回比較（消滅可能性）

α：前回消滅可能性自治体で、今回脱却した自治体

β：消滅可能性自治体に新たに該当した自治体

γ-①：消滅可能性自治体に変わりはないが、若年女性人口減少率が改善

γ-②：消滅可能性自治体に変わりはないが、若年女性人口減少率が悪化

・前回比較（増減率の分類）

今回（2020年→2050年）の若年女性人口減少率と、前回（2010年→2040年）の若年女性人口減少率を比較

△①：若年女性人口減少率が10%ポイント以上改善

△②：若年女性人口減少率が10%ポイント未満改善

▼②：若年女性人口減少率が10%ポイント未満悪化

▼①：若年女性人口減少率が10%ポイント以上悪化

酒田市は9分類ではC-2（自然減対策が必要、社会減対策が極めて必要）となっている。前回比較で消滅可能性自治体になりはしないが、若年女性人口減少率が改善されているとの分析結果になった。

資料：人口戦略会議（令和6年4月24日）令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポートより作成



人口動向分析・将来人口推計
データ集

【人口の将来推計】

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計
酒田市の将来人口推計
酒田市の人口の自然増減

【持続可能性自治体分析】

9分類による「消滅可能性自治体」の状況
県内自治体の持続可能性分析結果比較

【人口の状況】

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移
県内他地域との合計特殊出生率比較
酒田市の年齢5階級別人口
酒田市の人口と年齢構成の推移
酒田市の自然増減と社会増減
酒田市の人口性比
酒田市の世帯数の推移

【社会増減の状況】

酒田市の転入・転出の推移
酒田市の年齢別転入転出数
酒田市の年齢階級別移動状況
若年層の流出状況
酒田市と他地域との人口移動状況（社会動態）
酒田市から他市町村への転入・転出の状況
県内高校生の卒業後の進路
酒田市の昼夜別人口（昼夜間人口比率）の推移
通勤・通学における流動人口

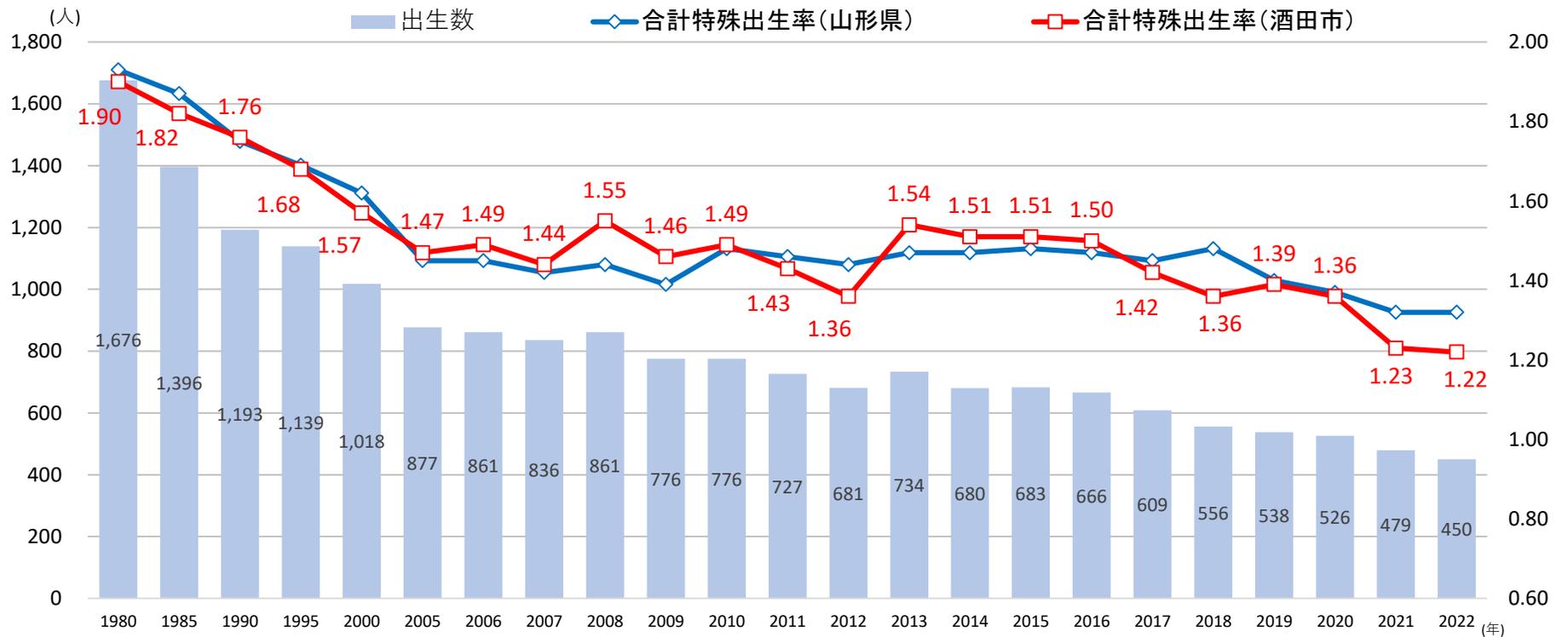
【産業別人口の状況】

酒田市の年齢別産業分類人口の状況
酒田市の年齢別産業分類人口の状況（構成比）
酒田市の男女別産業分類人口の状況

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移

・合計特殊出生率・出生数は長期的に減少傾向。合計特殊出生率は2021年（令和3年）に1.3を下回り2022年（令和4年）は1.22となった。

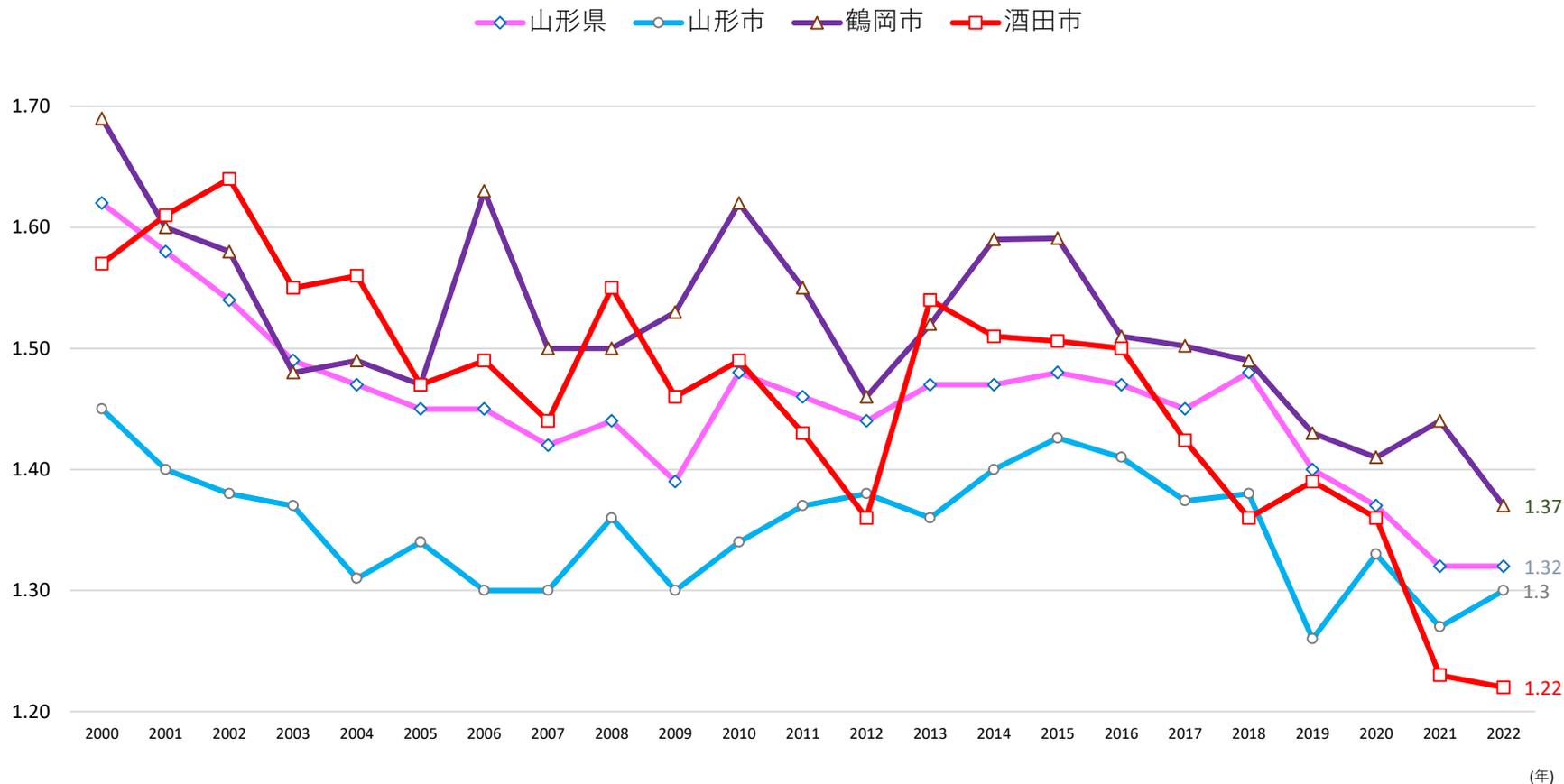
※「合計特殊出生率」：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産む平均の子どもの数に相当する。



資料：山形県「福祉統計年報」（酒田市の平成17年以前のデータは、合併前のデータ）、山形県「山形県統計年鑑」令和4年より作成

県内他地域との合計特殊出生率比較

- ・ 合計特殊出生率が人口置換水準（人口規模が維持される水準＝2.07）を下回る状況が続いている。
- ・ 県内全域で合計特殊出生率は減少傾向にあり、山形県では2022年（令和4年）は1.32となった。

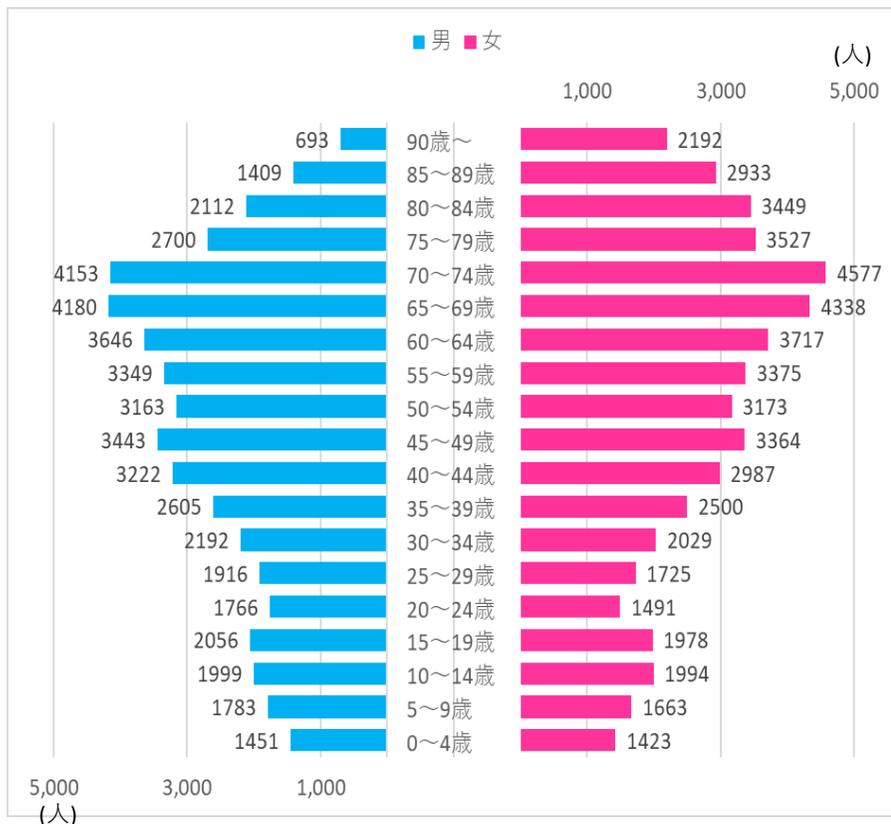


資料：山形県「山形県統計年鑑」令和4年より作成

酒田市の年齢5歳階級別人口（人口ピラミッド）

- ・男性は65～69歳、女性は70～74歳の層の人口が最も多くなっている。
- ・71～73歳は、第1次ベビーブーム（昭和22～24年）の世代となり、酒田市においても70～74歳が人口が多い層となっている。
- ・20～24歳の人口が少ないのは、進学や就職による市外への人口流出が多いことが原因と考えられる。

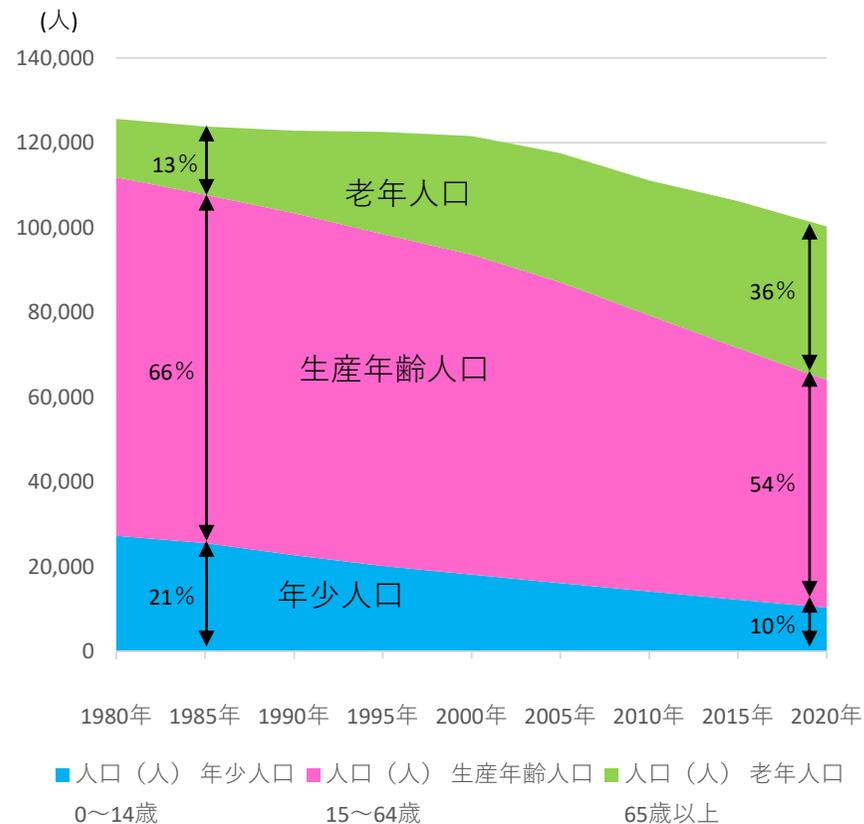
2020年（令和2年）10月1日時点での酒田市の年齢5歳階級別人口



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成

酒田市の人口と年齢構成の推移

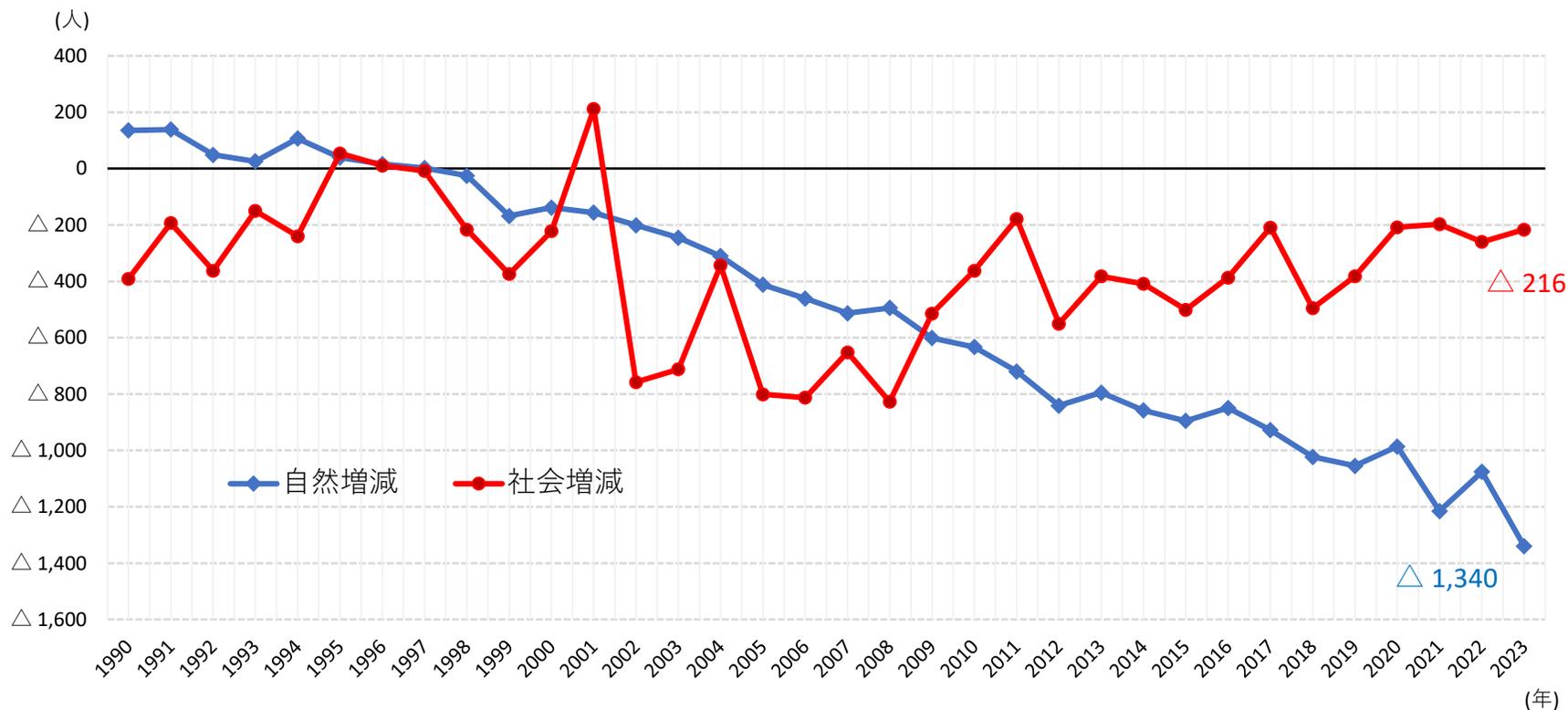
- ・生産年齢人口と年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加している。
- ・酒田市総人口に占める65歳以上の割合は、1985年が13%、2020年（令和2年）が36%となる。



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成

酒田市の自然増減と社会増減

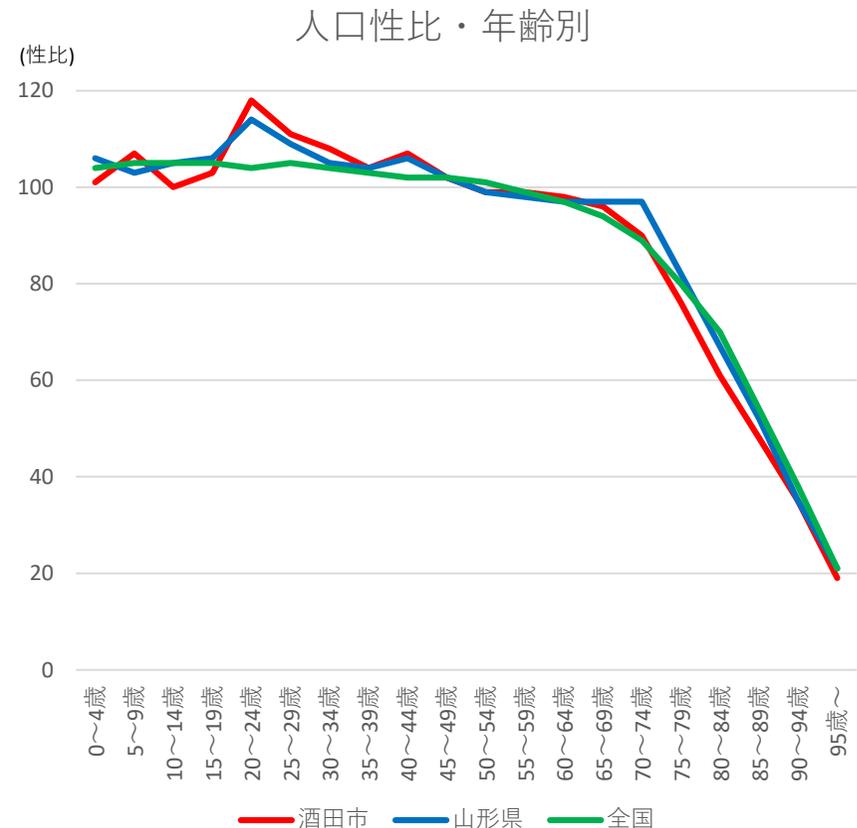
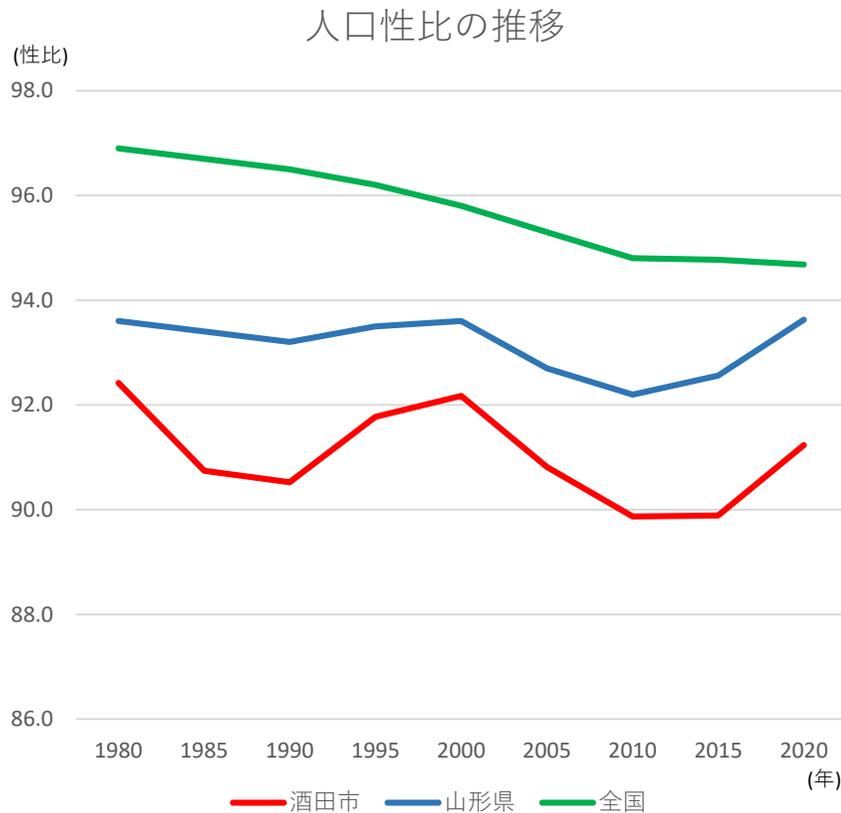
- ・自然増減（出生数－死亡数）は、1998年（平成10年）から減少に転じ、2023年（令和5年）までの約25年間で1,340人減少にまで拡大している。
- ・社会増減（転入者数－転出者数）は、一時的な転入超過はあるものの転出超過傾向が続いており、2023年（令和5年）は、216人減少となっている。
- ・2009年（平成21年）以降は、自然減が社会減より拡大している。



資料：山形県「山形県の人口と世帯数」より作成

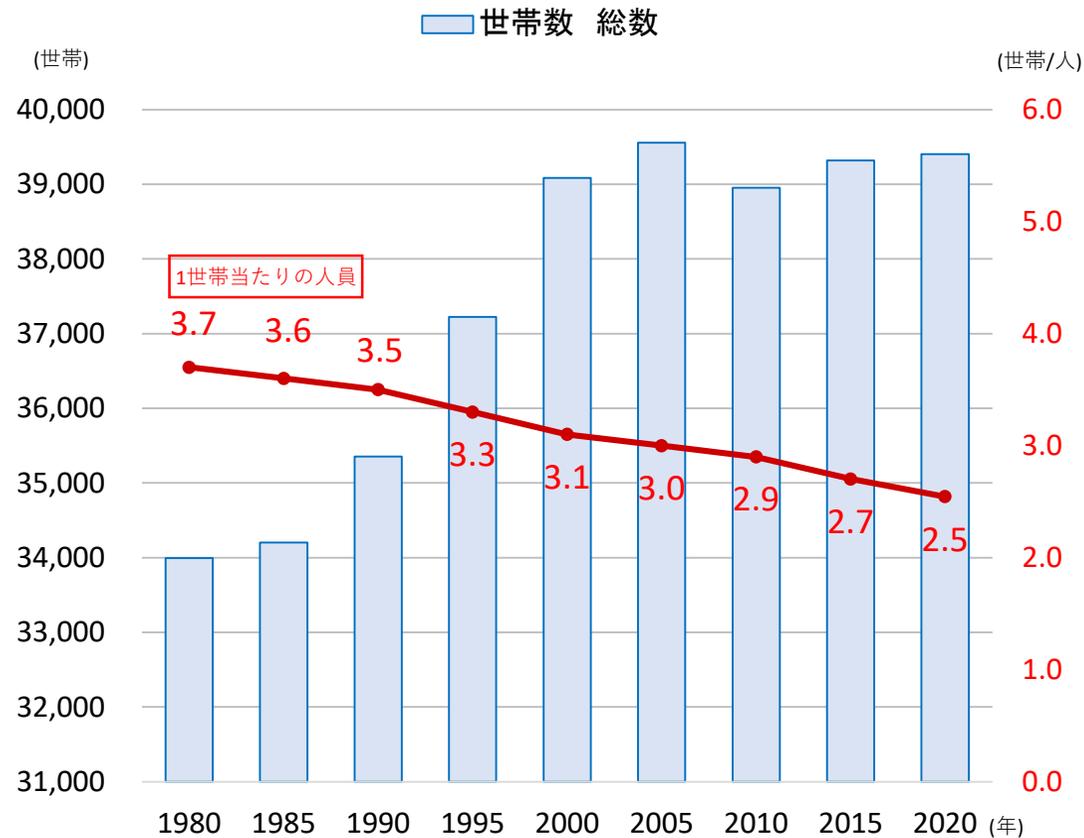
酒田市の人口性比

- ・人口性比とは女性100人に対する男性の数であり、「人口性比 = 男性 / 女性 × 100」で求める。
- ・酒田市の人口性比は、全国、山形県よりも下回っており、男性が少ない。
- ・酒田市の年齢別人口性比では、20～24歳で人口性比が急激に上がり全国が104に対して酒田市は118になっている。その後は徐々に人口性比が下がっていき、45～49歳で全国と同程度になる。75歳以降は酒田市の人口性比が全国、山形県よりも下回っていることから、全体として酒田市の人口性比が全国、山形県よりも下回っているのは、75歳以上の男性が少ないためといえる。

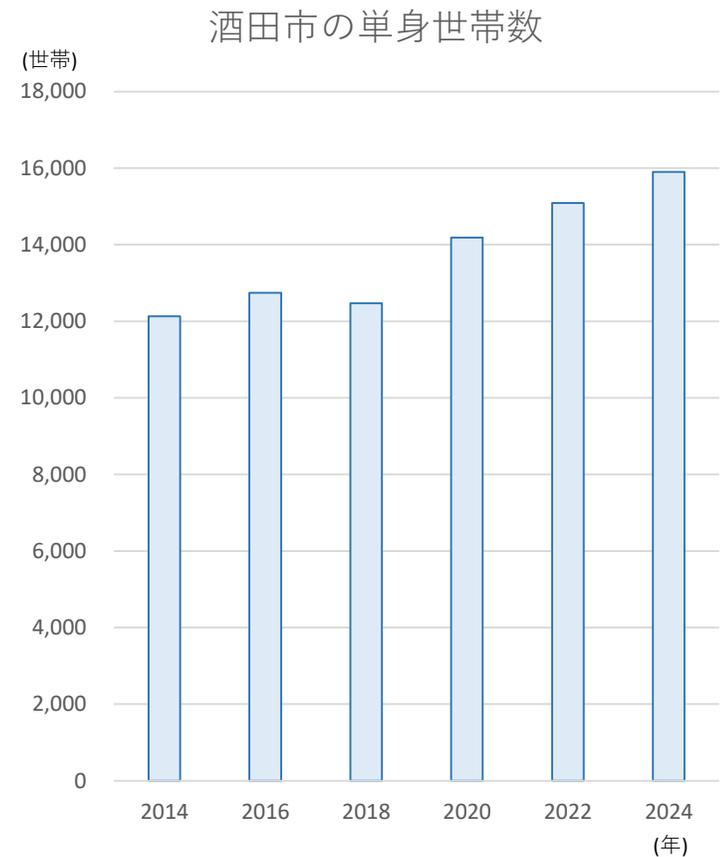


酒田市の世帯数の推移

- ・総世帯数は2005年（平成17年）まで増加傾向にあり、その後は横ばいとなっている。一方、1世帯当たり人員は減少傾向にある。
- ・単身世帯数は2018年（平成30年）以降増加している。



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成



資料：酒田市人口基礎データより作成



人口動向分析・将来人口推計
データ集

【人口の将来推計】

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

酒田市の将来人口推計

酒田市の人口の自然増減

【持続可能性自治体分析】

9分類による「消滅可能性自治体」の状況

県内自治体の持続可能性分析結果比較

【人口の状況】

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移

県内他地域との合計特殊出生率比較

酒田市の年齢5階級別人口

酒田市の人口と年齢構成の推移

酒田市の自然増減と社会増減

酒田市の人口性比

酒田市の世帯数の推移

【社会増減の状況】

酒田市の転入・転出の推移

酒田市の年齢別転入転出数

酒田市の年齢階級別移動状況

若年層の流出状況

酒田市と他地域との人口移動状況（社会動態）

酒田市から他市町村への転入・転出の状況

県内高校生の卒業後の進路

酒田市の昼夜別人口（昼夜間人口比率）の推移

通勤・通学における流動人口

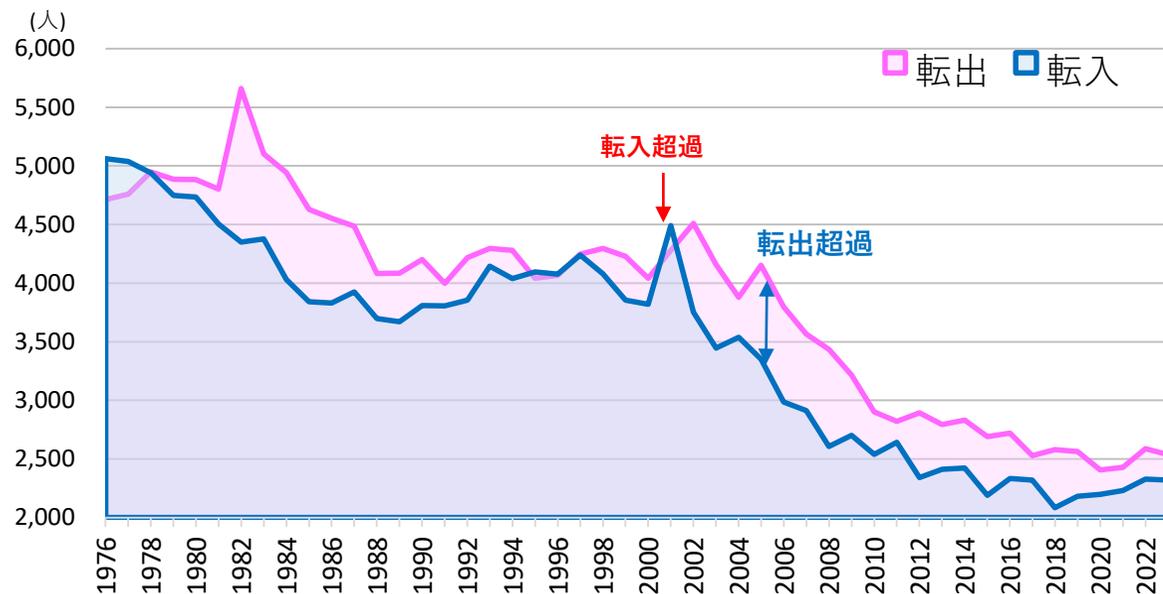
【産業別人口の状況】

酒田市の年齢別産業分類人口の状況

酒田市の年齢別産業分類人口の状況（構成比）

酒田市の男女別産業分類人口の状況

酒田市の転入・転出の推移



・全体として転出超過が続いている。
 ・1995年（平成7年）、1996年（平成8年）、2001年（平成13年）と一時的な転入超過が見られたが、2002年（平成14年）以降は転出超過が拡大傾向となり、2008年（平成20年）には827人と、平成に入って最大の転出超過となった。
 ・直近の2023年（令和5年）は、216人の転出超過となった。

(単位：人)

年	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
転入	3,805	3,854	4,145	4,039	4,096	4,077	4,240	4,079	3,854	3,820	4,492	3,752	3,447	3,537	3,351	2,986	2,914
転出	3,998	4,216	4,295	4,279	4,042	4,066	4,248	4,295	4,228	4,042	4,280	4,510	4,159	3,880	4,152	3,799	3,566
合計	△ 193	△ 362	△ 150	△ 240	54	11	△ 8	△ 216	△ 374	△ 222	212	△ 758	△ 712	△ 343	△ 801	△ 813	△ 652

転入超過

転入超過

転出超過

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
2,607	2,703	2,539	2,642	2,343	2,411	2,424	2,190	2,334	2,319	2,084	2,181	2,199	2,231	2,328	2,321
3,434	3,217	2,901	2,820	2,893	2,793	2,833	2,691	2,721	2,528	2,579	2,563	2,407	2,428	2,588	2,537
△ 827	△ 514	△ 362	△ 178	△ 550	△ 382	△ 409	△ 501	△ 387	△ 209	△ 495	△ 382	△ 208	△ 197	△ 260	△ 216

転出超過

資料：山形県「山形県の人口と世帯数」より作成

酒田市の年齢別転入・転出数

(単位：人)

年齢	転入	転出	社会移動
0	11	27	△ 16
1	30	26	4
2	19	16	3
3	17	21	△ 4
4	13	15	△ 2
5	15	19	△ 4
6	12	14	△ 2
7	11	14	△ 3
8	12	9	3
9	5	9	△ 4
10	7	4	3
11	7	6	1
12	4	5	△ 1
13	2	7	△ 5
14	1	5	△ 4
15	7	22	△ 15
16	7	20	△ 13
17	9	1	8
18	58	146	△ 88
19	102	175	△ 73
20	68	68	0

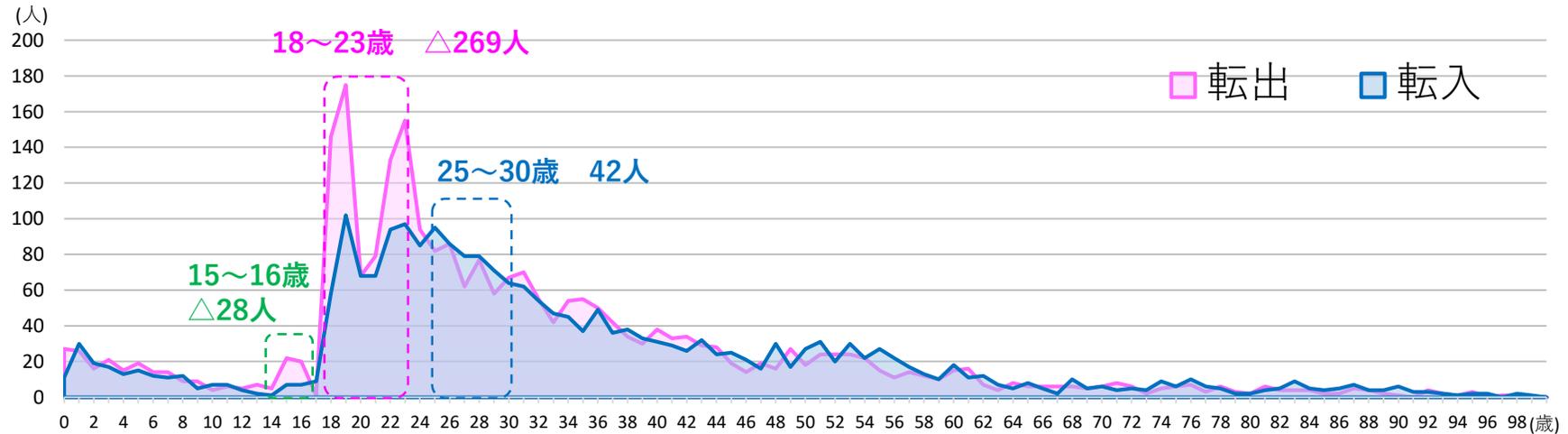
年齢	転入	転出	社会移動
21	68	79	△ 11
22	94	133	△ 39
23	97	155	△ 58
24	85	94	△ 9
25	95	82	13
26	86	86	0
27	79	62	17
28	79	77	2
29	71	58	13
30	64	67	△ 3
31	62	70	△ 8
32	54	55	△ 1
33	47	42	5
34	45	54	△ 9
35	37	55	△ 18
36	49	50	△ 1
37	36	42	△ 6
38	38	34	4
39	33	30	3
40	31	38	△ 7
41	29	33	△ 4

年齢	転入	転出	社会移動
42	26	34	△ 8
43	32	29	3
44	24	28	△ 4
45	25	19	6
46	21	14	7
47	16	19	△ 3
48	30	16	14
49	17	27	△ 10
50	27	18	9
51	31	24	7
52	20	24	△ 4
53	30	24	6
54	22	22	0
55	27	15	12
56	22	11	11
57	17	14	3
58	13	12	1
59	10	10	0
60	18	15	3
61	11	16	△ 5
62	12	7	5

年齢	転入	転出	社会移動
63	7	4	3
64	5	8	△ 3
65	8	6	2
66	5	6	△ 1
67	2	6	△ 4
68	10	6	4
69	5	5	0
70	6	6	0
71	4	8	△ 4
72	5	6	△ 1
73	4	2	2
74	9	5	4
75	6	6	0
76	10	7	3
77	6	3	3
78	5	6	△ 1
79	2	3	△ 1
80	2	2	0
81	4	6	△ 2
82	5	4	1
83	9	4	5

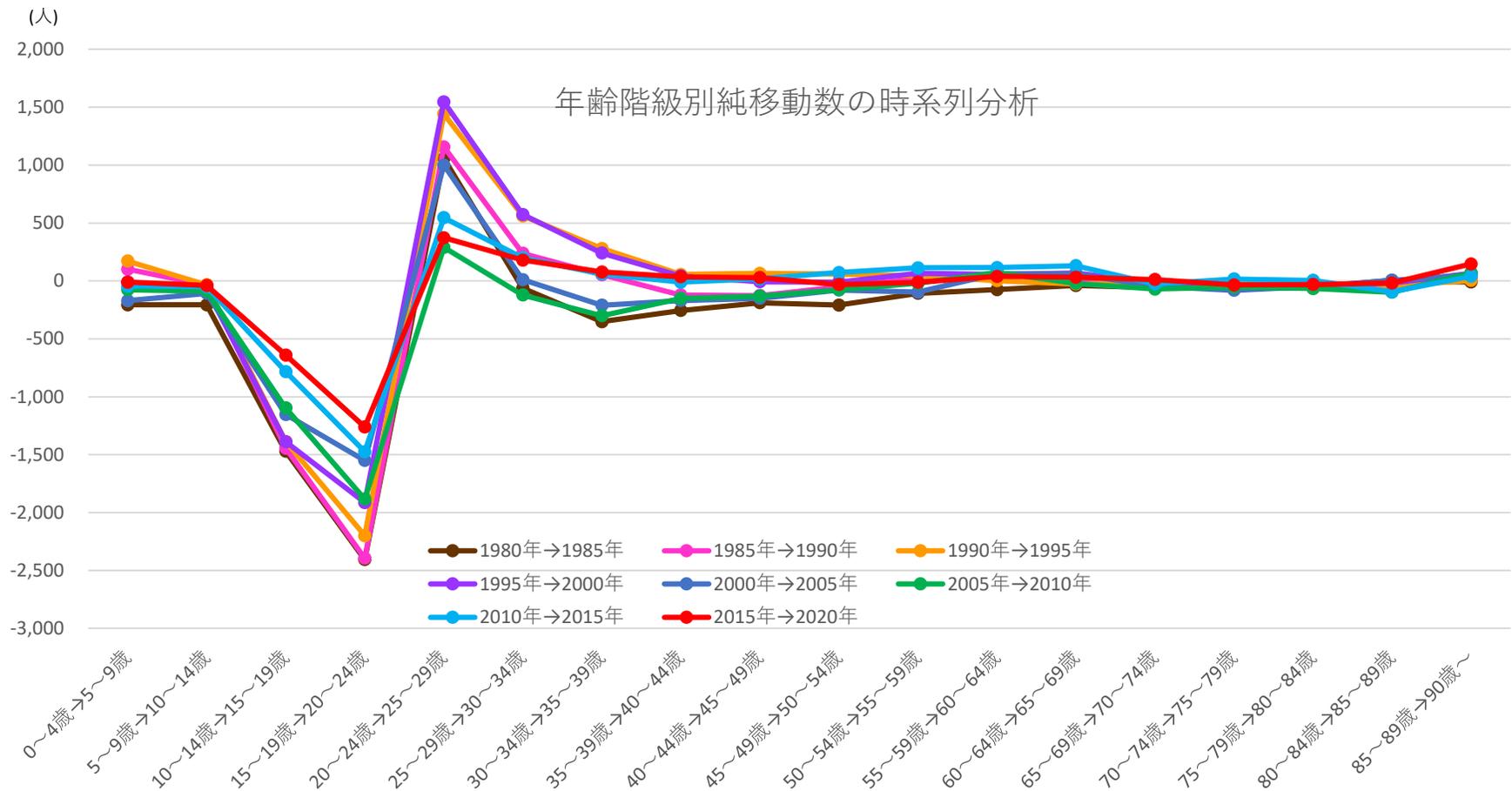
年齢	転入	転出	社会移動
84	5	4	1
85	4	2	2
86	5	2	3
87	7	5	2
88	4	4	0
89	4	2	2
90	6	1	5
91	3	0	3
92	3	4	△ 1
93	2	2	0
94	1	1	0
95	2	3	△ 1
96	2	0	2
97	0	1	△ 1
98	2	1	1
99	1	0	1
100~調整	0	0	0
計	2,321	2,537	△ 216

・2022年(令和4年)10月～2023年(令和5年)9月の酒田市全体の転出超過数216人に対し、18～23歳の転出超過数は269人となっており、若者の市外流出が社会減少の要因になっている。
 ・15～16歳の高校進学年齢では転出超過数28人となっている。
 ・25～30歳の転入超過数は42人に留まっており、就職や進学等で本市を離れた若者が戻っていないことが一因と考えられる。



酒田市の年齢階級別移動状況

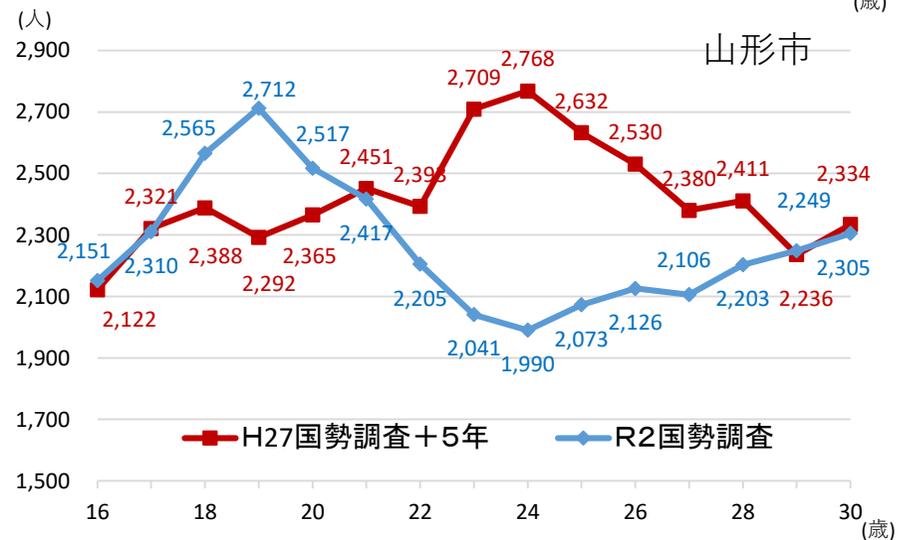
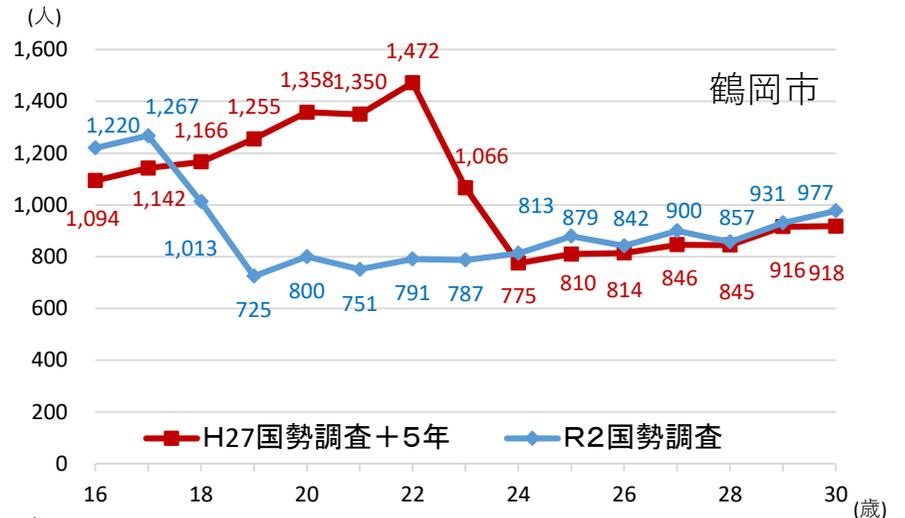
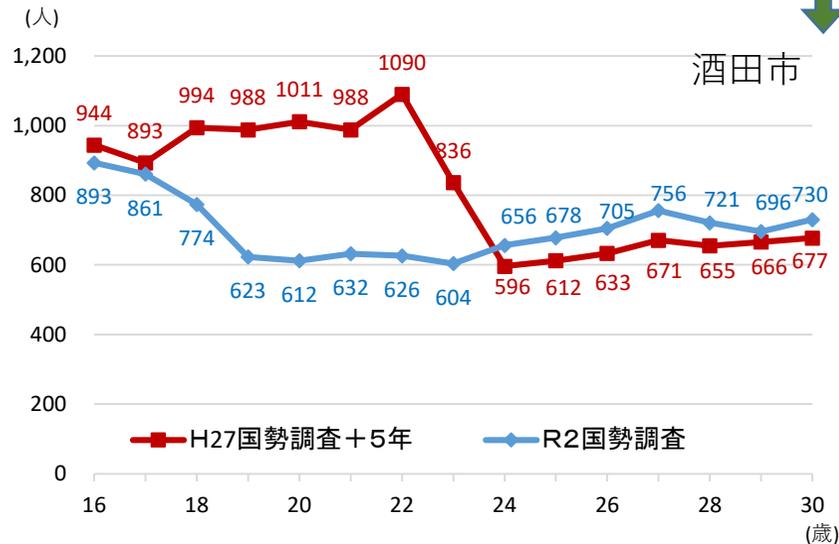
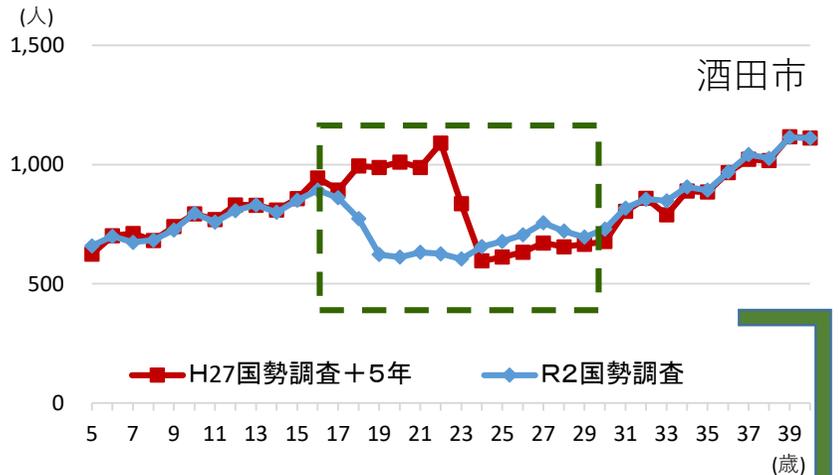
- ・ 5年毎の年齢階級別の移動状況（純移動数＝転入者数－転出者数）では、10代後半～20代前半にかけて、大幅な転出超過傾向にある。
- ・ 20代後半～30代前半に、転入超過の傾向になるが、就職や結婚による転入の影響が考えられる。



資料：RESAS（地域経済分析システム）2020年より作成

若年層の流出状況

- ・2015年（平成27年）の年齢別人口をそのまま5年経過させた数値と2020年（令和2年）を比較すると、酒田市では18～22歳で著しく人口が減少する。
- ・18歳（994人-774人）と19歳（988人-623人）では585人の人口減がみられる。24歳以降は緩やかな人口増となり、24歳から30歳まで合計で432人の人口増となっている。

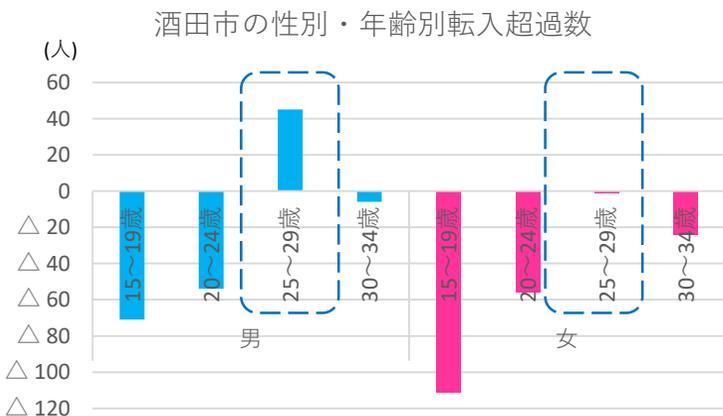


資料：総務省「国勢調査」2020年より作成

酒田市と他地域との人口移動状況

※年齢階級別・男女別の人口移動状況

- ・酒田市における2023年（令和5年）の20～24歳の人口移動状況は、全体では社会減（△110人）となっている。内訳は男性△54人、女性△56人で男女による差はない。
- ・25～29歳の人口移動状況は全体では社会増（44人）となっている。内訳は男性45人、女性は△1人となっており、男性は社会増、女性は社会減となっている。
- ・女性が社会減となっているのは、宮城県、新潟県、関東方面への移動が多いためと考えられる。
- ・山形県における人口移動状況は、15～19歳で40人、20～24歳で10人、25～29歳で51人、30～34歳で△18人となっており、合計では社会増になっている。



資料：「住民基本台帳」(2023年、外国人の移動を含まない)より作成

酒田市の年齢、性別、住所地別人口移動状況

移動前又は移動後の住所地	総計(人)				男(人)				女(人)			
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳
全 国	△ 182	△ 110	44	△ 30	△ 71	△ 54	45	△ 6	△ 111	△ 56	△ 1	△ 24
01 北海道	△ 5	9	2	△ 2	△ 2	8	1	△ 1	△ 3	1	1	△ 1
02 青森県	0	5	△ 5	△ 1	1	6	△ 4	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	0
03 岩手県	0	△ 12	△ 3	3	1	△ 5	1	2	△ 1	△ 7	△ 4	1
04 宮城県	△ 49	△ 6	5	△ 8	△ 21	1	1	△ 4	△ 28	△ 7	4	△ 4
05 秋田県	8	12	△ 1	△ 2	8	5	△ 2	△ 3	0	7	1	1
06 山形県	40	10	51	△ 18	34	4	40	△ 4	6	6	11	△ 14
07 福島県	10	△ 2	14	5	8	△ 4	7	3	2	2	7	2
08 茨城県	△ 2	△ 3	△ 2	△ 4	△ 3	△ 2	△ 1	△ 2	1	△ 1	△ 1	△ 2
09 栃木県	△ 6	△ 3	0	△ 1	△ 3	△ 1	0	△ 1	△ 3	△ 2	0	0
10 群馬県	△ 2	△ 1	△ 3	0	△ 1	1	△ 1	0	△ 1	△ 2	△ 2	0
11 埼玉県	△ 14	△ 12	5	△ 2	△ 7	△ 7	3	1	△ 7	△ 5	2	△ 3
12 千葉県	△ 19	△ 12	△ 4	5	△ 10	0	1	2	△ 9	△ 12	△ 5	3
13 東京都	△ 60	△ 58	△ 15	△ 4	△ 34	△ 29	△ 5	△ 1	△ 26	△ 29	△ 10	△ 3
14 神奈川県	△ 32	△ 22	0	5	△ 22	△ 11	0	3	△ 10	△ 11	0	2
15 新潟県	△ 34	5	△ 4	△ 4	△ 15	△ 2	2	△ 4	△ 19	7	△ 6	0
16 富山県	△ 1	△ 2	0	△ 1	△ 1	△ 2	0	0	0	0	0	△ 1
17 石川県	△ 3	3	1	0	△ 3	2	1	0	0	1	0	0
18 福井県	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 1	0	0	0	0
19 山梨県	△ 1	△ 1	1	0	0	△ 1	1	0	△ 1	0	0	0
20 長野県	△ 1	△ 5	△ 3	1	0	△ 3	△ 3	1	△ 1	△ 2	0	0
21 岐阜県	0	△ 2	0	0	0	△ 2	0	0	0	0	0	0
22 静岡県	△ 5	△ 3	2	△ 3	△ 1	△ 2	0	△ 3	△ 4	△ 1	1	2
23 愛知県	0	2	△ 1	△ 3	0	0	0	△ 1	0	2	△ 1	△ 2
24 三重県	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0
25 滋賀県	0	△ 1	0	0	0	△ 2	0	0	0	1	0	0
26 京都府	△ 5	4	△ 2	3	△ 3	4	△ 1	0	△ 2	0	△ 1	3
27 大阪府	△ 1	△ 10	1	△ 2	1	△ 8	1	0	△ 2	△ 2	0	△ 2
28 兵庫県	0	1	△ 3	△ 1	0	1	△ 1	0	0	0	△ 2	△ 1
29 奈良県	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
30 和歌山県	0	△ 1	△ 1	1	0	△ 1	0	1	0	0	△ 1	0
31 鳥取県	0	0	△ 2	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 1	0
32 島根県	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
33 岡山県	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
34 広島県	0	△ 1	0	△ 1	0	△ 1	0	0	0	0	0	△ 1
35 山口県	0	0	0	2	0	1	0	1	0	△ 1	0	1
36 徳島県	△ 1	0	0	0	0	0	0	0	△ 1	0	0	0
37 香川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38 愛媛県	△ 1	1	0	1	0	1	0	1	△ 1	0	0	0
39 高知県	0	△ 2	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 1	0	0
40 福岡県	0	△ 1	4	0	0	△ 2	3	1	0	1	1	△ 1
41 佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42 長崎県	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
43 熊本県	0	△ 2	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 1	0	0
44 大分県	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	3	0
45 宮崎県	1	△ 3	1	0	1	△ 2	0	0	0	△ 1	1	0
46 鹿児島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47 沖縄県	0	0	0	△ 1	0	0	0	1	0	0	0	△ 2

酒田市から他市町村への転入・転出の状況

・県内では隣接する鶴岡市や庄内町、遊佐町、また山形市との間での移動が多い。特に、山形市との間で最も転出超過となり、純移動数は△57人となっている。

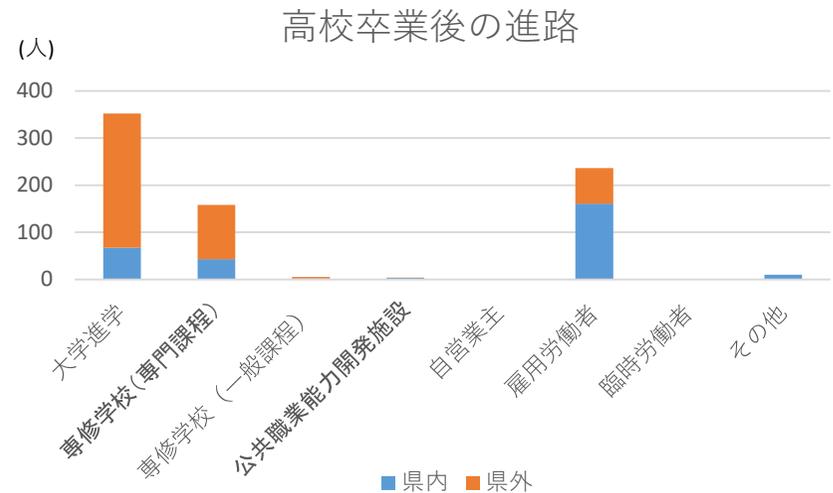
・一方、県外への転入者数・転出者数は、東京都特別区部、新潟市、仙台市との間で移動が多く、純移動数は東京都特別区部との間で△89人、新潟市との間で△52人、仙台市との間で△45人と、山形県内の状況と比較しても大幅な転出超過となっている。

	転入者数 (人)	転出者数 (人)	純移動数 (人)
県内総数	979	871	108
酒田市を除く庄内地域	507	408	99
鶴岡市	261	235	26
庄内町	125	84	41
遊佐町	98	59	39
村山地域	315	359	△ 44
山形市	180	237	△ 57
天童市	54	34	20
最上地域	84	55	29
新庄市	46	45	1
置賜地域	73	49	24
県外総数	1,140	1,500	△ 360
東京都特別区部	106	195	△ 89
仙台市	135	180	△ 45
秋田市	37	49	△ 12
横浜市	25	59	△ 34
新潟市	36	88	△ 52
川崎市	27	21	6

資料：「住民基本台帳」(2023年、外国人の移動を含まない) より作成

県内高校生の卒業後の進路

・県内高校生の進路は大学進学、専修学校は県外が多く就職は県内が多い。県外への転出者は男女ともに全体の6割強となっており、男女間の大きな差はない。



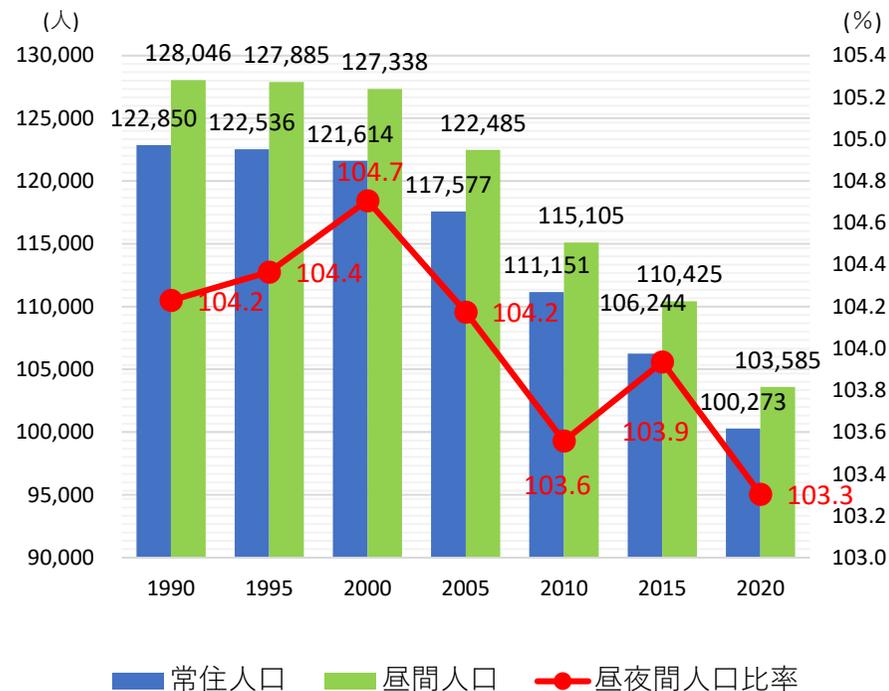
卒業後の進路	全体 (人)		男 (人)		女 (人)	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外
大学進学	67	285	25	152	42	133
専修学校(専門課程)	43	115	8	35	35	80
専修学校(一般課程)	2	3	1	1	1	2
公共職業能力開発施設	3	1	2	1	1	0
自営業主	0	1	0	1	0	0
就職	162	75	98	52	64	23
その他	10	0	6	0	4	0
合計	287	480	140	242	147	238

資料：「令和5年度学校基本調査」より作成

酒田市の昼夜別人口(昼夜間人口比率)の推移

・昼夜別の人口の推移をみると、いずれの年においても、常住人口(夜間人口)に比べて昼間人口※が多く、酒田市外から通勤や通学をしている人が多い。しかし、昼間人口は年々減少傾向にある。

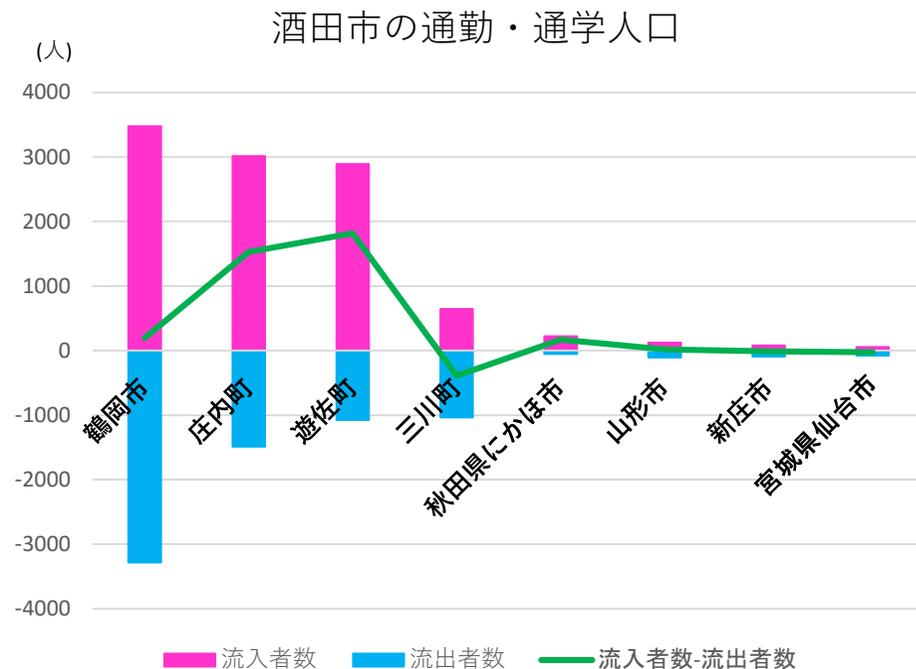
※「昼間人口」=常住人口(夜間人口) - (他の市区町村へ通勤・通学している人) + (他の市区町村から通勤・通学している人)



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成

通勤・通学における流動人口

・通勤・通学における流出入状況では、鶴岡市は流入者と流出者の人数が同程度となっており、庄内町、遊佐町は流入者が多い。三川町へは流出者が多い。



資料：RESAS（地域経済分析システム）より作成



人口動向分析・将来人口推計
データ集

【人口の将来推計】

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計
酒田市の将来人口推計
酒田市の人口の自然増減

【持続可能性自治体分析】

9分類による「消滅可能性自治体」の状況
県内自治体の持続可能性分析結果比較

【人口の状況】

酒田市の合計特殊出生率・出生数の推移
県内他地域との合計特殊出生率比較
酒田市の年齢5階級別人口
酒田市の人口と年齢構成の推移
酒田市の自然増減と社会増減
酒田市の人口性比
酒田市の世帯数の推移

【社会増減の状況】

酒田市の転入・転出の推移
酒田市の年齢別転入転出数
酒田市の年齢階級別移動状況
若年層の流出状況
酒田市と他地域との人口移動状況（社会動態）
酒田市から他市町村への転入・転出の状況
県内高校生の卒業後の進路
酒田市の昼夜別人口(昼夜間人口比率)の推移
通勤・通学における流動人口

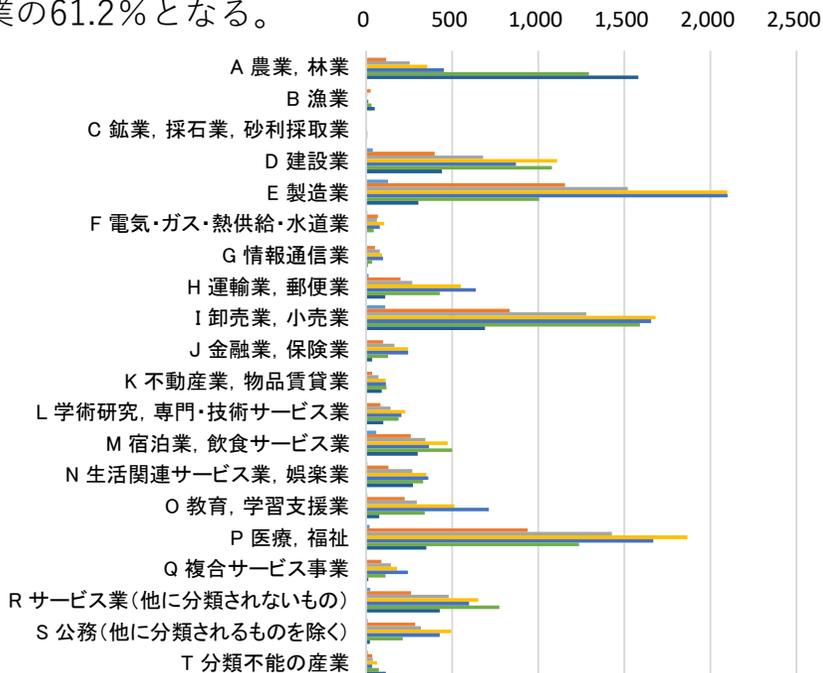
【産業別人口の状況】

酒田市の年齢別産業分類人口の状況
酒田市の年齢別産業分類人口の状況（構成比）
酒田市の男女別産業分類人口の状況

酒田市の年齢別産業分類人口の状況

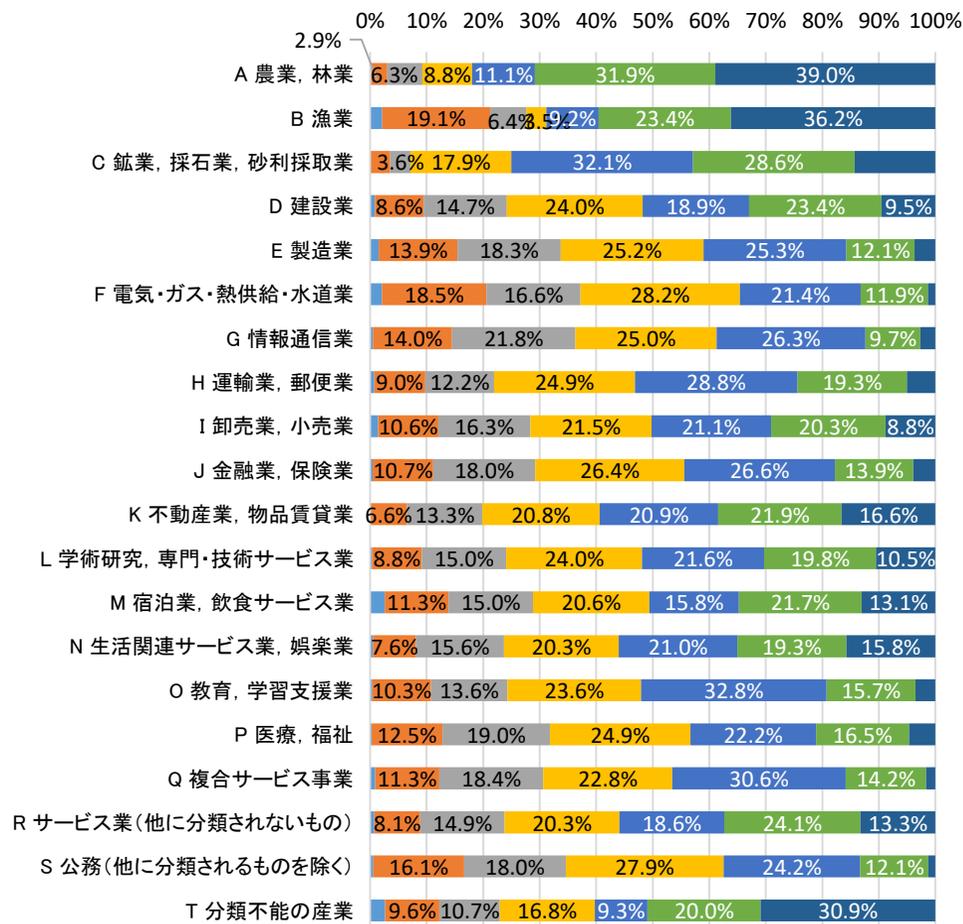
・製造業、卸売業・小売業、医療・福祉で30代、40代、50代の数値が高くなっている。農林業や漁業では60代以上の割合が70%以上となり、他業種に比べて高い。

・若い世代（10代～40代）の割合が高い業種は、電気・ガス・熱供給・水道業の65.4%、次いで情報通信業の61.2%となる。



■ 10代 (15~19歳) ■ 20代 (20~29歳)
 ■ 30代 (30~39歳) ■ 40代 (40~49歳)
 ■ 50代 (50~59歳) ■ 60代 (60~69歳)

酒田市の年齢別産業分類人口の状況 (構成比)

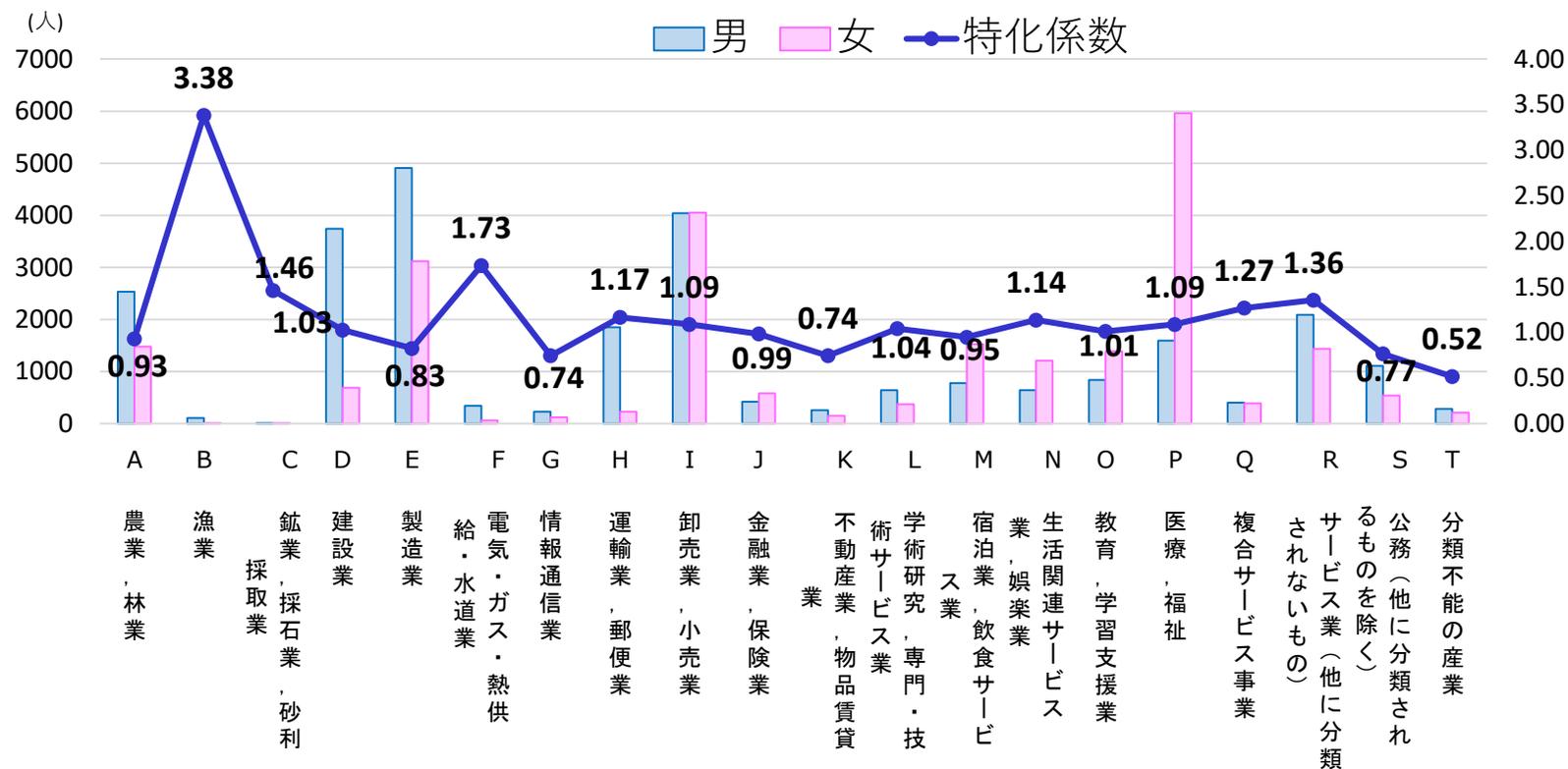


■ 10代 (15~19歳) ■ 20代 (20~29歳)
 ■ 30代 (30~39歳) ■ 40代 (40~49歳)
 ■ 50代 (50~59歳) ■ 60代 (60~69歳)
 ■ 70代以上 (70歳以上)

資料：総務省「国勢調査」2020年より作成

酒田市の男女別産業分類人口の状況

- ・男性は、製造業、卸売業・小売業、建設業の順に就業者が多く、女性は医療・福祉、卸売業・小売業、製造業の順に多い。
- ・山形県を基準とした特化係数（酒田市のX産業の就業者比率／山形県のX産業の就業者比率）をみると、漁業が1.0を大きく上回り、県に比べて就業者の比率が高い水準となっている。また、農業は1.0を下回っており、就業者数は男性の方が女性より多くなってる。
- ・不動産業・物品賃借業、情報通信業、公務は特化係数で0.8を下回っており、県に比べて就業者の比率が低い。



資料：総務省「国勢調査」2020年より作成